



- 昼夜放牧と時間放牧の2形態の放牧に取り組んでいる
- 放牧と自給飼料の生産により粗飼料自給率100%を実現

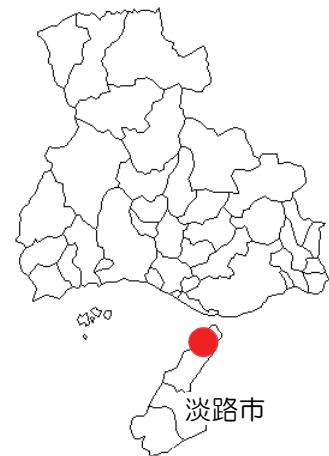
1 地域の概要

淡路市は、淡路島北部に位置し、大阪湾に面する東浦地域と瀬戸内海に面する西浦地域に分けられる。中央部を南北に山系が連なり、水田の大半は棚田で、農業用水はため池を利用している。総耕地面積は2,940haで、うち水田が2,440haを占めている。市内には520ha（O5センサスより）もの耕地が、耕作放棄地となっている。

年平均気温は15.6℃、年間降水量は1,098ミリで、温暖な気象条件を生かして、古くから花き（カーネーション、キク、ストックなど）、野菜（タマネギ、トマトなど）、果樹（ミカン、ブドウ、ビワなど）、畜産（繁殖和牛、肥育牛、酪農など）の生産が盛んである。

農業産出額は約70億円で、畜産（35%）、花き（25%）、米（22%）、野菜（13%）、果樹（5%）の順となっている。

肉用牛は、大部分が繁殖和牛経営で、市内で3,000頭が飼育されており、神戸ビーフや松阪牛の肥育素牛の産地として知られている。



2 経営の概要

淡路市中持の古賀田牧場は、夫婦で成牛23頭、育成牛6頭の繁殖和牛経営を行っている。

牧草の作付け状況は、下図のとおりで、乾草の購入は一切なく、粗飼料自給率100%を実現している

区 分			頭数	放牧頭数
肉用牛	繁殖	成牛	23頭	23頭
		育成牛	6頭	6頭

地目	面積	備考
水田	1.8ha	水稻・稲わら
畑	6ha	牧草・放牧



【古賀田夫妻】

牧草の作付け状況

種 類	面積	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
イタリアン・エン麦混播	2ha												
イタリアン	1ha												
トウモロコシ	20a												
ソルゴー	1ha												

● : 播種 ■ : 収穫

3 取組の経緯

飼育頭数を増やしてきたことから、裸地も目立ち始め、平成8年に環境調和飼料生産委託事業（県単独事業）を活用して、シバの導入を図り、草地の更新に取り組んだ。

平成15年に牛舎近くの採草地約1.2haを借り受けたが、傾斜がきつく、農業機械の操作に危険が伴った。

そのため、畜産振興事業を活用して電気牧柵等を整備、育成牛等の牛舎スペースを確保するため採草地を利用した昼夜放牧に取り組んだ。

平成19年に、耕作放棄された採草地の管理を頼まれ、畜産振興事業を活用して、昼夜放牧の面積拡大を図った。



【放牧地配置】

4 放牧の概要及び特徴

牛舎隣接の約80aの時間放牧場には、分娩2ヶ月前から分娩までと、分娩1ヶ月後から妊娠確認できるまでの牛を放牧している。子牛は、出産1ヶ月後から離乳するまでの間放牧に出している。ここでの放牧牛をこまめに観察することで、発情の発見につながっている。

一方、牛舎近くの採草地約1.2haの昼夜放牧場には、妊娠牛を分娩の2ヶ月前まで放牧している。1年中放牧場として利用しているため、放牧場内の草の状況と牛の栄養状態を考慮して、乾草と配合飼料の給与を行っている。

成牛の放牧状況

	分娩前			分娩	分娩後								
時期	3	2	1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
時間放牧場													
昼夜放牧場													



【時間放牧場】



【昼夜放牧場】

5 放牧の効果

放牧に取り組んでから、発情の発見が容易になったうえに、妊娠鑑定を受けずに予定日近辺で間違いなく出産させることができています。特に分娩間隔も、平成18年度の実績で387日となっており、地域の多頭農家の中では上位に位置している。また、自給飼料の生産と放牧を組み合わせることで、粗飼料の自給率100%を実現しており、子牛を含めた親牛1頭当たりの飼料代を10万円以下に抑えることができています。

執筆協力・問い合わせ先
兵庫県北淡路農業改良普及センター
TEL: 0799-62-0671